

『同じ』を繰り返す」

島根県 そうえんじ 宗淵寺 寺族 いたくらちよ 板倉千代

お寺で過ごすお正月も、今年で15回目。同じ場所で暮らす年数としては、最長記録を更新中です。というのも、私は幼いころから父の仕事の都合で、1、2年毎に引っ越しを繰り返して、日本の北から南まで家族で移り住んで育ちました。転勤を繰り返した父が、東京勤務で落ち着くようになり都内で家を建てて定住しましたが、その時私はもう高校生でした。

ですから、私の「故郷」はみなさんのおっしゃる「故郷」という感覚とは、少し違うような気がします。気候も、生活習慣も、近所の方のお人柄や関係性も違う、さまざまな変化の中で暮らしてきた私には、一つの場所に定住する今の暮らしは未知の領域です。

私の子どもは、お寺のあるこの地で生まれ、地元の小学校に通っています。同級生はみんな幼馴染。子どもにとっては「ここが「故郷」になるのでしょうか。成長し達者な出雲弁で喋るようになった子どもにつられ、私も少し出雲弁が話せるようになりました。

庭掃除をしていると、いつも同じ時間にお参りする方々にお会いします。その度に天気の話や、家族の安否など、取り止めのない会話を交わします。話しながら相手の表情に、くもりや、かげりを感じる時、「おばあちゃんが転んで骨折した」、「親戚が、余命いくばくもない」など、堰を切ったように、心のモヤモヤを話されることがあります。

「同じ」ことを繰り返すことで得られる安心があり、「同じ」環境を整えているからこそわかる「変化」があるのです。いつもと同じように見えても、実は変わらぬものはないという「同じ」。

お寺では、毎年同じ日に同じ行事を執り行い、その準備や対応は、毎年同じように万端整えます。そんなお寺での生活を、しみじみと思い返しながら煮るお正月の金柑。今年の出来栄はどうか気にしながら食卓に並べているうちに、今年も「同じ」お寺の一年が始まります。